

第4期多摩区区民会議 第8回自然災害部会 摘録

□開催日時	平成25年9月19日(木) 午後6時00分～8時00分
□会場	多摩区役所10階第1002会議室
□参加者	荒井部会長、細埜副部会長、安陪委員、石橋委員、清宮委員、原田委員、藤原委員(以上、自然災害部会員)
危機管理担当	森田課長補佐
事務局	飯塚係長、奈良職員
コンサルタント	福田研究員
傍聴者	無し

0 アンケートの進捗状況

議事に先立ち、アンケートの進捗状況について、事務局が報告をした。内容は、以下の通り。
事務局 先日、正・副委員長、荒井部会長と町連の副委員長で、アンケートの実施に関する意見交換を行った。既に似たような調査を行っているので、このままの内容では町連の理解は得られないという回答で、まだ実施に至っておらず、区民会議フォーラムでアンケート結果を報告するのは難しい状況だ。意見のポイントは以下の2点であり、この点の理解を得られるかだ。

○似たようなアンケートを実施しているので、その結果を活用することはできないか。

○これまでもアンケート等に協力したが、フィードバックがない。また、アンケートに協力することが、町連にとって良い方向につながるのか疑問がある。

荒井部会長 平成23年度に防災に関するアンケートを実施しているので、それを参考にできないかということだったが、アンケートを実施したことを誰も知らなかった。3大学の学生との連携については、学生がボランティアに熱心になるのは就職にメリットがあるからであり、そういう角度から考えてはどうかという意見があった。門間課長が平成23年度のアンケートと照らし合わせて内容を再検討し、仕切り直すことになった。

石橋委員 平成23年度のアンケートには、今回聞きたい項目が無いものもある。鏡文が行政的な表現であり、町連としてはいかななものかという意見もあった。一時避難場所もきちんと理解されていないように受け止めた。23年度のアンケートを精査し、何が足りないのかを書き出しながら願います。コミュニティ部会のアンケートもイベントというくりですべてが入るニュアンスを持たれたが、部会の中で出たのは、盆踊りと祭礼だ。それは違うということでその場で修正した。町会の運動会等は費用負担をしているので、そこに町会以外の人に来て、景品を持っていかれるという話もあった。町会の皆さんにご理解をいただける内容に書きぶりを変えないと、アンケートの実施は難しい。区民会議フォーラムまでにはほしい資料なので、門間課長と大津委員長で内容を検討しているところだ。また、「つながる、広がる、パートナーシップ連絡協議会」事業の内容を精査したのかと聞かれたが、その事業についても知らなかった。区民会議全体会の時に、過去にこのようなアンケートを実施していると行政から情報提供してもらえていれば、事前に軌道修正をして対応できたのに残念だ。

事務局 現在、過去5年にさかのぼってどんな調査をしたかを調べている。23年度のアンケートの内容を見ると、区民会議として聞きたい内容とはちょっとずれていて直接は使えない。パートナーシップ連絡協議会は、雑談的な会議で、議事録をしっかりと取るといった

会議ではないようだ。次回の話し合いが最後のチャンスになると思うので、抜け落ちがないように資料を集めている。

コンサル 町会にアンケート疲れのようなものがあって、アンケート自体もう勘弁してくれということではないのか？もしそうであれば、フォーラムで直接、一時避難場所や学生との連携について参加者に意見を聞くという方法もある。

石橋委員 個々の受け止め方だが、私は完全にノーということではないと思う。実際、現在も自主防災関連のアンケートが回っている。依頼文の鏡の書き方を、ぎょうぎょうしい行政的なアンケートではない表現にした方が良いだろう。もう仕切り直しはないから、過去にさかのぼってどのようなアンケートをしたのかは抑えておかないといけない。

コンサル 次回の定例会が10月にあるが、それまでに事務局で文案を検討し、アンケートを実施するということが良いのか？

石橋委員 門間課長と大津委員長の間でその方向で作業を進めていると理解している。

荒井部会長 話のきっかけとして、町会に入っていない人が避難所に来た際は、避難物資を渡すかどうかと町会で話し合っているところからスタートした。また、ある人が街灯が切れたので直してもらいたいと役所に話を持って行き、役所から町会に話があったが、その人は町会に加入していないということがあった。話の流れは、役所から町会に来る要望があり、それに対して町会は一生涯懸命やっているが、町会に加入していない人がいることに対して不満があると言っていた。アンケートも、町会の負担という基本的な話になっていた。町会にとってどういうメリットがあるのか理解されないと難しいという思いがした。何のためのアンケートかが伝わっていないため、内容の違うアンケートを持ってきて、これを使えという。拒否反応が大きいと感じた。

藤原委員 私も町会に出ると、木の葉を掃除しろ、枝を切れなど、町会に加入していない人が勝手なことを言ってくる。防犯灯も町会費から払っているのに、町会費を払っていない人には権利がない。そういうことへの理解をまず得ないといけない。

1 区民会議フォーラムについて

コンサルが配布資料に基づき、区民会議フォーラムの自然災害部会意見交換の進め方を説明し、意見交換をした。

荒井部会長 多摩区版「備える。かわさき」については、前回まで検討した内容をフォーラムで提案し、意見をもらうので良いだろう。防災マップを作るにあたり、アンケートを実施できないと、一時避難場所が地図に載らないことになる。それはまずいのではないかと提案する。

安倍委員 地域によっては一時避難場所を設置する場所のない地域がある。決まっていなくても、この地域には作れない、この地域にはここに置いてもいいのではないかと提案する方法もある。

原田委員 私の方には公園がほとんどないので、神社に集まる。学校区に分かれると、3つの学校に行くことになり、わざわざ一か所には集まらない。人によって、一時避難場所に対する考え方に違いがある。

藤原委員 先日の台風の時に土砂災害があったが、その時は避難をしたのか？

森田課長補佐 近所にお子さんの家があり、そこに避難した。

藤原委員 どこにどういう風に避難させるのかを、町会としても考えておかないといけない。そういったものも町会が設置する。

石橋委員 前回の全体会議で話題が出たが、一時避難場所は、避難所運営会議と連動しているのか？町会が一時避難場所を定めることになっているのであって、避難所運営会議が決

めることにはなっていない。一時避難場所はいくまでも町会が自主的に決めるものだ。一時避難場所に集まり、学校へ行って、初めて避難所運営会議になる。行く前は避難所運営会議がどうこうということではない。

マップは、多摩区全体のマップを作り、でも中学校区単位でわかるようになった方がよいというのがスタートだった。最初から一時避難場所をうんぬんで作るのではなく、もう少し細かく見ることができるような地図を作る作業を進めるが、みなさんいかがでしょうか？という問いかけをフォーラムですれば良いのではないかと。一時避難場所は、防災マップの中に入れる項目の一つであり、現状がまずどうなっているかは委員で確認し、マップづくりをする。災害時に安全に逃げる仕掛けづくりのメインは、まず、避難所運営会議がいくつかの地域に重なっていることを加味すると中学校区単位くらいで地図を作成し、その大きさをA3なりA2にするかを定める。一時避難場所は、町会で決めているかいないかを知るだけで良い。

荒井部会長 アンケート方式でうまくいくのかどうかだ。こういうものを作りたいから、一時避難場所を教えてくださいと言えば教えてもらえるのではないかと。アンケート方式にこだわっていると結論が出ない。町内会連合会に、一時避難場所を教えてくださいと聞くしかない。

コンサル 今日これから作ろうとしている多摩区全体の防災マップに、一時避難場所がすべて網羅されていなくても良いのではないかと。一時避難場所に限らず、前回確認した記載項目は、地元の人でないとわからない部分もある。今回はあくまでも参考として作成するのであり、もっと小さな単位で防災マップを作成する際に正確な場所がわかれば良いのではないかと。それよりも区民会議として、例えば「やはり一時避難場所は重要だから、多摩区では各町会で必ず設置しましょう」ということを提案するにあたり、本当に一時避難場所が必要なのか、設置する場所はあるのかといったことをアンケートで把握しようということではないのか？

荒井部会長 そうではない。これから作成する多摩区版の防災マップに、一時避難場所の位置を記載するだけであり、分析してどうこうということは意味がない。

コンサル それでは、確かにアンケートの必要はないかも知れない。ただ、これから作成する地図に一時避難場所の位置を正確に落としとしたとして、その地図をどう活用するのか？

荒井部会長 小さな単位で作成した防災マップを、各家庭に届ける。

コンサル 自分たちで集まって身近な防災マップを作成するのではなく、ここで作成したものを配布するというイメージか？

荒井部会長 多摩区版の防災マップを作ろうということで、そのためにはこういう項目を入れたマップを作ることを前提で進めている。そのためには、A3サイズでは見えないので、もっと小さな単位で作成した方が良さだろうという話の流れだ。

藤原委員 まず全体で作成をしてみて、その上で避難所ごとに作成するのが良いのではないかと。この部会ではまず多摩区全体の状況を見たいわけだから、多摩区全体の地図をとりあえず作成する。その後で各避難所で作成し、A4なりにコピーをして配布するようにしないと作業は進まない。

石原委員 配布資料5ページの一時避難場所の記載については、設置意向までは記載せず、“一時避難場所の設置状況”で止めてしまえば良い。提言の中に「一時避難場所が設置されていないところは、設置した方がスムーズに避難できる」といった表現にすれば良い。それをどう料理するかは行政の仕事であり、それを各町会がどう受けとるかだ。

マップづくりについては、現在中途半端なマップはあるけれども、危険度を入れた多摩区版のマップがないというところからスタートしている。東京都は危険度マップを作成しているが、川崎市にはそういったマップがないので、まずひな形を作り、多摩区ではこういうマップを作って区民に配られた方が良いでしょうという提言にする。そのマップの中に、何と何を入れたけれども、まだ足りないものがあるかをフォーラムで聞く。作ることを決めておいて、その内容をフォーラムで発表し、足りないものがありますかという問いかけをすれば良い。一時避難場所も地図に落としたいから、シンプルにして聞けば良い。

コンサル それなら、一時避難場所を設置しているか、いないかを聞き、設置している場合は具体的に名称や住所を書いてもらう設問にしてはどうか。

石橋委員 われわれが作成するマップと旧来の市のマップを掲示し、意見交換ができれば良い。大きな地図を持って歩くのは大変なので、中学校区単位で切り出して、町会でご利用していただければという提案にする。ストーリーを描いてフォーラムに臨めば、こちらの言いたいことも言えるし、参加した方も意見が出しやすい。

コンサル 二つ目の提案は、まず身近な防災マップを皆で考えましょうということをメインにする。地図に記載する要素の一つとして、一時避難場所が入るとのことだ。フォーラムまでに皆さんで作業をしてマップを作り、私たちはこういうものを作りましたと示して、こういった項目を入れた方が良いのではないかとか、区分の単位はどのくらいが良いのか、配布するサイズはどのくらいかなどの意見をもらう。

アンケートはフォーラムまでにまとめようというが、学生の連携についてはどうするか。

石橋委員 3 大学に隣接している町会の皆さんは、いざという時に学生にかけつけてほしいという意見があったから、何らかの形で提案できると良い。

荒井部会長 大学の近くの町会としてはそういう意見を当然持っているが、遠いところは関係ないという部分がある。

石橋委員 それは、学生というところを中高大学生と想定すれば良い。大学とのやりとりは、結論から言うと、区と3大学で防災協定を結びなさいということに尽きる。防災協定の中身をどうするかは、行政が考えても良いし、こういう協定を結んではどうかと提案と一緒につけても良い。町の中に住んでいる大学生には、祭りの神輿の担ぎ手がいらないから大学にお願いしようという意見もコミュニティ部会では出ていた。ウェルカムだという姿勢を示すことが必要だ。

安倍委員 学生というところでどうしても3大学が頭に来る。一般の学生、高校生、大学という考えで話を進める。あえて3大学とするなら、今石橋委員が言ったように、行政との連携を作してほしいという要望で持っていくのが良い。

藤原委員 われわれの身近なところでは、中学生が大変活躍してくれる。防災訓練にも中学生が参加している。力があるので、われわれとしては助かる。中学生は身近にいる。

コンサル 「中・高・大学生」との連携という表現にするか。

石橋委員 昼間はお年寄りしかいない。中・高校生を含めた学生はいる。その辺の書きぶりは、提言のし方だ。

コンサル 中・高・大学生との連携についても、フォーラムの中できちんと意見交換をした方が良いということだが、どういうテーマで意見交換をするか。

石橋委員 こちらから何か考え方を出さないと意見は出ない。

藤原委員 今まで出てきた内容を提案し、皆さんの意見を聞いてこれからまだ審議を続けます

で良いのではないか。

荒井部会長 岩崎委員によると、学生は発災したときの時間帯によって、または季節によって、学生がいる、いないに差があるという話があった。東海大学の協定はスポーツ部との協定であり、スポーツ部は24時間地元にいる。そういう人を対象にすれば、力として期待できる。漠然とした学生にアプローチを考えていると無理だ。スポーツ部に特定すれば、大きな力になる要素はある。学生たちにとっても、そういう活動をしていたことが就職に有利に働くことは間違いない。そういう方向からの攻め口もある。

コンサル それでは、ここはとくに何かを提案して意見を聞くのではなく、一般的に中学生、高校生、大学生との連携についてどう思うか、どんな連携をしたいかの意見を求める内容で良いか。

石橋委員 「いざという時に助け合える体制づくり」というのは、お互いに顔見知りでないで助け合うことは難しいということであるならば、誰も、そこに住んでいる人は仲間なんだということをベースにするとして、町会や自主防で開催する防災訓練に積極的に参加を促していただきたいなどそういう提案を掲げたいが無理でしょうかということ聞いてみる。コミュニティにも関係するが、地域で企画する行事によそ者だと言わずに、学生と言えども積極的に参加してよということだ。一年生の時から、うまく“ウィン＆ウィン”の関係ができれば、災害の時に手助けをしてもらえるだろう。運動部云々は、区が協定を結ぶときに使う言葉にする。隣のアパートに学生が住んでいる。いざという時には顔を出してほしいねという思いが書ければ良い。地域に顔を出せるような仕組みづくりと同時に、行政としてもそういうことを積極的にPRしてほしい、広報してほしい。

コンサル 今の石橋委員のお話では、町会などが主催する防災訓練に、学生にも出てもらうことを提案したいと思うが、どうですかと意見を聞く。次回でも良いが、提案は3つくらいあった方が良いので検討しよう。

石橋委員 フォーラムの90分のうち、部会としてどこに重点を置くのか。まず、マップがあつて、「備える。かわさき」多摩区版がある。意識レベルを上げるために、マグネット方式や掲示板、回覧板を考えるので、その前提としてまずマップがないといけない。最後に学生だ。学生との連携に関する意見交換を10分にして、その他2つをじっくりと意見交換すべきだ。

荒井部会長 自然災害部会をどう進めれば良いか？

石橋委員 自然災害部会では、次の3つを提案しようと考えている、とまず3つの説明をしてしまい、順番に意見を聞いてはどうか。全体の進行は部会長が担当するので、部会長のかじ取りでうまく進行すれば良い。時間配分を見ながら、これ以上意見がないと思ったら次に行く。最後に時間に余裕があれば、全体を通しての意見を聞く。

藤原委員 項目ごとに意見を聞くのではなく、こういうこととこういうことですと説明し、最後に皆さんご意見はありませんかと時間を取った方が進めやすい気がする。たくさん意見が出れば、そのテーマは延長しても良い。

コンサル それでは最初の経過説明と3つの提案の説明は何分とりますか？

石橋委員 それぞれを10分ずつとっても30分。意見交換を20分ずつ取れば、ちょうど60分で、合計90分になる。

6ページの座席表は誰が作ったのか？正・副部会長は、ずっとこの位置にいるのか？

事務局 事務局が作成した。冒頭の全体会のみだ。あくまでもイメージだ。

コンサル 一昨年のフォーラムには、何人くらいが参加したのか？

事務局 30人くらいだ。

荒井部会長 部会も同じ部屋でやったのか？分かれないと、両方が声を出すので難しい。

事務局 10階の会議室を二つ取ってある。選挙の関係で、11階が取れなかった。

石橋委員 対角線にテーブルを置いて離さなくてはいけない。

コンサル 役割分担はどうするか？

原田委員 前は、部会長が補佐を事前に頼んでおいて、二人で進行していた。委員は意見などは言わなかった。

荒井部会長 24日にコミュニティ部会があるので、そちらとも調整した方が良いのではないか。

コンサル とくに、90分の部会の進め方については、同じでなくても良いのではないか。

事務局 自然災害部会では、時間があまったらHUGを体験してみるのも良い。

森田課長補佐 最初に説明をしないといけないので、あまった時間だけで体験するのは難しい。

紹介する中でやり方を10分程度で説明することはできる。通しで体験すると、1時間30分はかかる。

石橋委員 ビデオ等はないのか？

森田課長補佐 写真はあるが、ビデオはない。

荒井部会長 過去の写真でスライドショーをしながら説明してもらえば、それはそれで参考になる。

事務局 HUGを試すのは最終手段であり、参加者の皆さんから意見を聞くことと区民会議の活動を知ってもらうことが重要だ。

石橋委員 行きつく先は、各自主防災でHUGを体験してみてはどうかと提案することになるのか。

森田課長補佐 実際に避難所を運営する立場の方は模擬体験になる。一般の皆さんには、避難所生活をする上でどんな課題があるのかを知識として持っておいてもらうことに役立つ。自分が避難所に行かざるを得ない状態になった時に、ああだった、こうだったと思い出してもらう手がかりになる。

荒井部会長 情報提供としては重要だ。

石橋委員 これから体験する場所はないのか？

森田課長補佐 11月16日午後2時から生田小学校で実施する。

荒井部会長 見に行くことは可能か？

森田課長補佐 委員長に了解を得れば可能だ。

コンサル 全体統括は5分程度で良いか？

石橋委員 荒井部会長が導入で話をする。全体会での第4期区民会議の概要は副委員長がすることになるので、私以外の委員さんが説明するのが良いのではないか。

荒井部会長 私が全てを説明し、その都度補足等を皆さんに振る。事前に打合せをする。

コンサル それでは、各10分×3テーマの30分プラスHUGの説明を10分で40分説明にあてる。配布資料は、「備える。かわさき」については細埜委員の案をパソコンで作直す。マップはこれから作業したものをホワイトボードに貼る。学生との連携については、次回、提案内容を3つほど検討する。

石橋委員 回覧板は、何種類くらいある等事務局で情報を把握してないか？

藤原委員 登戸町会にはこういう形のものが何個、菅町会には何個と、各町会のものが一つずつ集まると良い。

石橋委員 それを見ないと、回覧板にどういう仕掛けを作るかが言えない。

藤原委員 写真があれば、この部分を活用できないかなど具体例が出て良い。映して見せても良い。

事務局 いろいろな業者がいてパターンもいろいろある。表側は広告が入っているので、可能なのは表紙の裏側でA4判1枚くらいではないかという話があった。災害時の持ち出し品などを掲載している業者のものもある。その他、選挙についてや、振込詐欺の注意を呼びかけるものなどいろいろある。そのスペースにどんな情報を掲載するかを検討できると良い。

石橋委員 表紙の裏に印刷するのではなく、表紙の端に糊付けをして広げられるようにしてはどうかというアイデアもあった。

荒井部会長 そうすれば、貼る物を印刷して配布すれば何とかなるだろうということだった。

石橋委員 回覧板については、そういう提案ができると良い。そこに何を載せるかを決めておく。印刷するのは難しそうだ。

荒井部会長 持ち出し品などは既に印刷されているものがあるということだ。そういうことが可能なら、そこを多摩区推薦版のようにして、防災情報を載せてもらうことができると良い。

コンサル もし、選挙や振込詐欺のページは広告費を取らずに業者が内容を決めているのであれば、こういった内容を掲載してほしいとお願いすることは可能かも知れない。どういったものを載せるかについては、フォーラムで意見を聞く。

HUG の体験風景や回覧板の写真をプロジェクターで投影するとなると、部会意見交換の部屋は別々の方がよさそうだ。

2 審議テーマに関する取組み内容について

2グループに分かれて、多摩区全体の防災マップづくりを行った。次回完成の予定。



〔スケジュール〕

□第9回自然災害部会 平成25年10月30日(水) 午後6時～

以上